

創業70周年記念誌

 シノハラ防災株式会社



シノハラ防災株式会社 創業 70 周年記念誌 CONTENTS

社長挨拶	2
70 年の歴史を振り返る	
創業期 (1948 年～ 1975 年)	3
第一次発展期 (1976 年～ 1994 年)	4
第二次発展期 (1995 年～ 2008 年)	5
第三次発展期 (2009 年～)	6
座談会	7
信頼を受け継いできた — それこそがシノハラ防災の正直な経営魂	
これからの時代をどう生き抜いていくか	13
シノハラ防災 70 年の歴史を社会に活かす	17
70 年目の私たちの等身大	19
社員行事	21
お仕事 COLUMN	23
会社情報	25

ごあいさつ



代表取締役社長
篠原 公則

平成30年10月に弊社は先代の故篠原榮二が創業して70周年を迎えました。

この間第一次・二次オイルショックなどの世界情勢や、国内情勢にもまれ、それに耐え、乗り越えて来られて今日有りますのも、ひとえに弊社が永くお世話になっております、多くの方々のご支援の賜物でございます。

ここに改めて心から厚く御礼申し上げる次第でございます。

20世紀から21世紀へと時代変化が慌ただしい中、この度の創業70周年を記念するとともに、更なる発展を誓いまして社史を発刊しました。

様々なメディアの普及によりまして、災害情報がすぐに伝えられ、防災意識の高まりを日増しに実感するとき、私どもに与えられた期待と責務の重大さに身が引き締まる思いを感じざるを得ません。

日々進化する様々な産業とそれに呼応した防災技術と知識をしっかりと取り入れ、そして身につけて、微力ではございますが、安全・安心・そしてお客様からの『ありがとう』の言葉を戴けますことをモットーに、常にお客様目線で役員、社員が心を一つにして、次の10年、20年、30年へ一步一步慌てずに歩んで参る所存です。

70年の歴史



創業期 1948-1975



創業者 篠原榮二



千日デパートビル火災（大阪市）

社内のできごと

社会のできごと

● 1948年3月 昭和23年 6月		○ 消防組織法制定（自治体消防制度の発足）
● 10月	篠原榮二 消火器の部品製造に携わる 三共工業創立（後に大成工業改称） ※東京都千代田区神田鍛冶町3-11	○ 消防法制定（消防行政の基盤が確立）
● 1949年1月 昭和24年		○ 法隆寺金堂火災（1955年より文化財防火デーに）
● 1950年4月 昭和25年	篠原榮二（株）丸山製作所入社以後、消火器等の販売に従事	
● 1960年7月 昭和35年		○ 消防法改正（消防用設備等設置基準を条例から政令へ）（防火管理者制度の開始）
● 1961年3月 昭和36年		○ 消防法施行令制定（消防用設備の設置制度化）
● 1964年6月 昭和39年 10月		○ 新潟地震 ○ 東京オリンピック
● 1965年5月 昭和40年		○ 消防法改正（消防設備士制度の創設）
● 1967年5月 昭和42年	シノハラ防災(株) 設立登記 東京都千代田区内神田 3-4-15 ((株) 丸山製作所 丸山本社ビル内) 初代社長 篠原 榮二 資本金 50 万円 社員数 4 名	
● 1970年2月 7月	資本金 100 万円	○ アポロ11号月面着陸
● 1972年5月		○ 千日デパートビル火災（大阪市）
● 1973年3月 昭和48年	消防設備業届（東京消防庁神田消防署）	
● 11月		○ 太洋デパート火災（熊本市）
● 1974年2月 昭和49年 6月	資本金 200 万円	○ 消防法改正（消防用設備の設置維持義務の強化）
● 1975年4月 昭和50年		○ 消防法改正（消防用設備の点検基準の確立）

第一次発展期 1976-1994

社内のできごと		社会のできごと
1976年1月 昭和51年	事業拡大のため 本社移転 東京都千代田区内神田 3-4-3 伊田ビル 資本金 300 万円 社員数 10 名	
1978年10月 昭和53年	建設業許可（一般） （東京都知事・・・消防施設工 事・電気工事） 資本金 500 万円	
1982年2月 昭和57年		○ ホテル・ニュージャパン火 災（千代田区）
10月	資本金 700 万円	
1985年8月 昭和60年	多摩地区営業強化のため武蔵 野営業所開設 東京都武蔵野市吉祥寺南町 2-23-19 消防設備業届（東京消防庁 武蔵野消防署）	○ 日航ジャンボ機墜落事故
1987年12月 昭和62年	資本金 1,000 万円	
1989年1月 平成元年		○ 昭和から平成へ
1993年9月 平成5年	第2代社長 篠原亮則	
1994年3月 平成6年	篠原榮二 消防庁長官表彰を受賞	
5月	事業拡大のため本社移転（現 在地） 東京都千代田区内神田 2-7- 10 松楠ビル 社員数 13 名	



昭和から平成へ



1994年本社移転（現在地へ）

第二次発展期 1995-2008

社内のできごと

社会のできごと

- 1995年1月 同年発生した阪神・淡路大震災及び地下鉄サリン事件を契機に防災事業が注目され、各種メディア（新聞・テレビ・週刊誌・旅行誌等）に当時の特徴ある企業として取り上げられる
- 1999年3月 篠原亮則
平成11年 消防庁長官表彰を受賞
- 12月 資本金 1,500万円
- 2001年9月
平成13年
- 2002年4月
平成14年
- 2003年3月 資本金 3,000万円
平成15年
- 8月 ISO9001（品質マネジメントシステム）認証取得
※ 2008.3 まで
- 2004年10月
平成16年
- 2005年5月 篠原亮則
平成17年 社団法人全国消防機器販売業協会 副理事長に就任
- 2006年9月 第3代社長 篠原知則
平成18年 社員数 15名
- 2007年6月
平成19年
- 7月
- 2008年5月 篠原亮則
平成20年 黄綬褒章を受章
- 7月 東京消防庁より「消防団協力事業所」に認定される
- 8月 エコアクション21（環境システム）認証取得

- 阪神・淡路大震災
- 地下鉄サリン事件
- 新宿歌舞伎町ビル火災
- 消防法改正（防火対象物点検報告制度の開始）
- 新潟県中越地震
- 消防法改正（防災管理点検報告制度の開始）
- 新潟県中越沖地震



新宿歌舞伎町ビル火災（2001年）



篠原亮則 黄綬褒章（2008年）



メディア掲載（1995～2000年）

第三次発展期 2009～2018

社内のできごと

社会のできごと

● 2009年3月 平成21年	篠原知則 消防庁長官表彰を受賞	
● 2010年10月 平成22年	第4代社長 篠原公則	
● 2011年3月 平成23年		○ 東日本大震災
● 10月	高度医療機器販売業 許可取得 (東京都) AED(自動体外式除細動器) 販売取扱い開始	
● 2012年11月 平成24年	篠原公則 消防庁長官表彰を受賞	
● 2016年4月 平成28年		○ 熊本地震
● 2018年10月 平成30年	現在 創業70周年 会社設立51年目(第53期) 社員数 17名 ※役職員総数	



篠原知則 消防庁長官表彰 (2009年)



篠原公則 消防庁長官表彰 (2012年)



東日本大震災 (2011年)



熊本地震 (2016年)
※2016年9月撮影 (阿蘇神社)

信頼を受け継いできた —— それこそがシノハラ防災の正直な経営魂

兄弟の「和」が経営に安定をもたらす。それを「輪」にして推進力を与えているのは、全社員の汗や努力に他ならない。感謝、変化、一生懸命…… 経営陣の心の内と歴史を紐といてみたい。



取締役会長
篠原 亮則

代表取締役社長
篠原 公則

取締役副会長
篠原 知則

創業期 1948～1975年

終戦を経て起業、家族で支え合い拡大していった高度成長期

会長 当社のスタートは1948年、満州で軍属*だった父が復員して、進駐軍を相手に消火器の部品を作りだしたのが最初でした。満州で工場長をしていたので、そうした知識や技術があったんです。

副会長 終戦の頃、父は30代。会長はもう生まれていました。

会長 母は乳飲み子だった私を連れて昭和20年（1945年）3月、戦争が終わる前に日本に帰ってきたんですが、父は満州で終戦を迎えてからです。大変だったでしょうね。もともと住んでいた四谷は、焼けた野原になっていた。私たちは母の実家がある吉祥寺に身を寄せており、そこに帰ってきたわけです。

ただ、事業を始めたものの、元来、技術屋さんで商売は得手ではありませんでした。その後、

1950年に丸山製作所という、老舗の消火器メーカーに入社しました。技術職ではなく営業職として入ったので、いわば大転換です。ただ、一方でダンスもするし、小唄もやる、スポーツも得意で、多才な人だったんです。人間的魅力があって、営業職に転換してからも仕事がどんどん取れたようです。そこは父の多才なところだったと思っています。

会長 当時、父が開拓した大口のお客様の多くが今もお付き合いくださっています。シノハラ防災の設立は1967年ですが、この時代があつての今ですから、それ以前を含めて創業期ととらえたいと思います。

会社設立のきっかけは、勤務先の丸山製作所が上場を決めたこと。上場準備のために雇用関係を整理し、セールススタッフは全員、独立しなくてはならなくなりました。幸い、父は丸山製作所のビルの一室を借りられて、会社を始められました。従業員は2人。それからすぐに私も、勤めていた会社を辞めて入社しました。父を見ていて、「親



取締役会長 篠原 亮則

昭和 44 年 入社（取締役就任）
平成 5 年 代表取締役社長就任
平成 18 年 代表取締役会長就任
平成 21 年 取締役会長就任

父も年取ったなあ。これはもう自分がやるしかないかな」という気持ちでしたから。

社長 その数か月後に、今度は副会長も入社しました。

副会長 大学を出て、すぐに。高校時代から週末は父の会社でアルバイトしていましたが、自然な流れで

した。アルバイト時代はお客様の社屋や社宅を回り、手作業で消火器の詰め替えをしていましたね。

社長 当時の消火器は、1年ごとに中身の薬剤を詰め替えないと効力がなくなるタイプだったのです。

副会長 そう、1日20本、30本、詰め替えていました。それが売上の主力、会社を支えていた時代でしたから。

社長 あの頃、兄弟でお客様のところに行って、井戸水を汲み上げながら、詰め替えに必要な消火器の洗浄作業なんかしていると、ご近所方に「えらいねえ」なんて褒められたりして（笑）。詰め替え用の薬剤も毎回、その場で1つずつ混ぜ合わせて作っていました。

副会長 冬は東京でも水道が凍る時代で、いつも仕事にならなくて困ったものでした。

社長 でも、「辞めたい」と思ったことはなかったんですよ。家族で助け合うのが自然なことでしたから。きっと、生まれたときから刷り込まれていたのでしょう（笑）。親戚にはよく、「親の育て方が上手だ」と言われていました。

副会長 15、16歳の頃から土日もなかったですが、不平不満を持ったことはありませんでした。

社長 今の時代とは、働き方がまったく違っていましたから。

私が入社したのは1974年、大学を出て防災関連メーカーで修行してからです。父から「万事、基本を大事にしろ。基本ができていなければ、応用は利かないよ」と言われていたので、メーカーで職人の世界に飛び込み、防災工事の基本をみっちり学びました。実際、シノハラ防災に入社してから、それは

非常に役に立ちました。

副会長 私も父から学んだことがありました。一つは仕事と家庭のバランスです。仕事も一生懸命する、でも休日には子どもを遊びに連れていったり、家族も大事にする。どちらも手を抜かない。高度成長期で企業戦士なんて言葉が流行った時代でしたけどね。そんな中でも父のそういう姿勢は見習ってきたつもりです。

*軍属：軍人以外の軍関係者。工場関係者、事務関係者、教育者、通訳など。

第一次発展期 1976～1994年

日本経済が右肩上がりの時代、事業の幅を広げ、総合防災業へ

会長 1974年に消防法が改正されて、スプリンクラーなどの消防用設備の設置や点検が強化されたのも大きな転機となりました。消火器の詰め替え以外のニーズが急速に増え、社員数も増えて、もっと広い別のビルに移転しようとなったのが1976年で



1994年3月、初代社長 篠原 亮二 消防庁長官表彰



旧丸山本社ビル

す。次の10年で、さらに会社としての形が整っていきました。

社長 それまで消火器の詰め替えを請け負っていた企業に足を運び、改正された内容を説明し、「これからはこういう設備や点検が必要なので、御社の場合……」と1件ずつ提案する営業を展開していきました。

そこでまた、ライバル会社と競うことになるわけですが、有り難いことに父の代から始まる長いお付き合いからくる信頼が追い風になりました。

それから面白いことに、あの頃、私たちは結婚すると、必ず嫁さんも入社して事務の仕事をしていたんですよ。これは母の信念で、「嫁さんは皆、仲良く、平等でなくてはいけない」というのがあったからです。家内もお腹が大きくなっても働いていたから、出勤途中、いつもの改札口で駅員さんに「もうひとつがんばり！」なんて声かけられたそうです（笑）。

そういう意味では、本当に家族ぐるみでやってきました。今でも正月になると皆で集まったり、仲がいいんです。

会長 ケンカしたら、会社を存続させることは難しくなります。

社長 そう。始めから、「ケンカしない」と決めているので抑止力が働くのです。

毛利元就が3人の息子に「矢は1本では簡単に折れるが、3本束ねれば強い」と教えた逸話を、我々の母親より子ども時代ずっと言われ続けていました。

会長 兄弟仲良く。そして社員も一緒に仲良く。ずっとそう思ってやってきました。うちは勤続年数の長い人が多いんですよ。これはとても嬉しいし誇れることです。

社長 親睦を深める社員旅行やレクリエーション行事も多く、行き先も内容も担当社員を信頼して一任しています。

会長 現在の松楠ビルに移ったのが1994年。長



取締役副会長 篠原 知則

昭和 45 年 入社（取締役就任）
平成 5 年 専務取締役就任
平成 18 年 代表取締役社長就任
平成 22 年 代表取締役副会長就任
平成 27 年 取締役副会長就任



兄弟の「和」が会社経営の維持にとって重要な要素になる



代表取締役社長 篠原 公則

昭和 49 年 入社
昭和 52 年 取締役就任
平成 5 年 常務取締役就任
平成 18 年 専務取締役就任
平成 21 年 代表取締役専務就任
平成 22 年 代表取締役社長就任

年、神田にいますが、我社の知名度は低いので、もっとよく知ってもらうために「1階に移ろう」と考えたのが移転の理由です。

そしてこの年は、父が、長年、日本の消防に尽くしてきた功績を認められ、消防庁長官表彰を戴いた年でもありました。

ス、そして工事関係がバランスよくそれぞれ1/3くらいずつになり、安定しています。

副会長 私たち3人がそれぞれ違うことを専門にしてきたのも、会社がうまく回ってきた要因だと思いますね。

社長 確かにそれは重要なことでした。私は営業畑、会長は理工学部出身でソフトなども作る研究肌、副会長は現場主義で、建築や点検の現場にもどんどん足を運んで仕事していくタイプ。

副会長 アドバイスはし合うけれども、互いの領域を尊重して出過ぎず、最終的には社長に任せる。同時に、私も会長も社長を経験していて職務の大変さを理解していますから、何でも力になろう、と思ってやっているわけです。

会長 この時期は、自社の発展にとどまらず、広く業界全体のために活動し始めたことも大きな変化でした。私も東京都消防設備協同組合の理事や全国団体である全国消防機器販売業協会の副理事長などを引き受けました。

社長 2008年、創業60周年を迎えた年には、会長が黄綬褒章をいただきました。

会長 そのときは社員だけでなく、協力会社様も招いて祝賀会を開き、従業員や協力会社様への表彰もさせていただいたんです。皆様なくしてここまでの歩みはあり得なかったという感謝の思い、そして、それぞれの励みになればという気持ちでした。

第二次発展期 1995～2008年

バブル崩壊のあおりも受けずに順調に前進、時代に合わせて変革していく

会長 1974年以降も、社会の変化に合わせて消防法関連の法規もたびたび改正され、そのたびに消防設備の工事、点検、防災商品という3つを柱としつつ、仕事の幅を拡大させていきました。その流れの中でISOを取得、さらに2008年には、それだけではもう不十分な時代だと考え、環境省が策定した環境経営システム「エコアクション21」にも登録、そして認定されたんです。

社長 これを契機に社員にも、新規業務に対応できるよう、ますます資格取得を奨励するようになりました。研修会を行ったり、資格手当などのインセンティブを設けたりもしています。

会長 この世界は資格社会だから、仕事の内容を増やすには資格の取得が欠かせません。たとえば電気工事業や消防施設工事業の資格があれば、それなりの大きな仕事ができるようになるのです。

そうした積み重ねの結果、今、会社の売上は消火器などの物品販売、消防設備のメンテナン



社員旅行のプランは担当社員が自己の裁量ですべてを決定する

第三次発展期 2009年～

新たな時代の幕開けを迎えた今、進化し続けるために

副会長 長年、防災に関して社会貢献してきたということで、2009年に私、2012年には社長も、消防庁長官から表彰していただきました。父（榮二）、会長も含め、4代続けて表彰は珍しいと思います。そのような会社は初めてかもしれませんね。

会長 しかし表彰の前年に、副会長が作務中に心筋梗塞で心肺停止するという大事件もありました。幸い、たまたまその場にAEDがあって蘇生でき、事なきを得ましたが、その時は大あわてでした。

社長 それをきっかけに、うちでもAEDを本格的に扱おうということになり、そのために、高度管理医療機器販売の許可証も取得しました。

会社にはもちろん設置していますが、私と副会長は自宅にもAEDを置いています。またいつでも人を助けられるように、出かける時には常に車にも積んでいるのです。

そんな大事件があったにもかかわらず、副会長は今でも、年齢からは考えられないほど動くし、とにかくすぐに現場へ行く（笑）。

副会長 自分の息子や孫みたいな世代が頑張っていますから、現場では「そのやり方じゃ足りないよ、

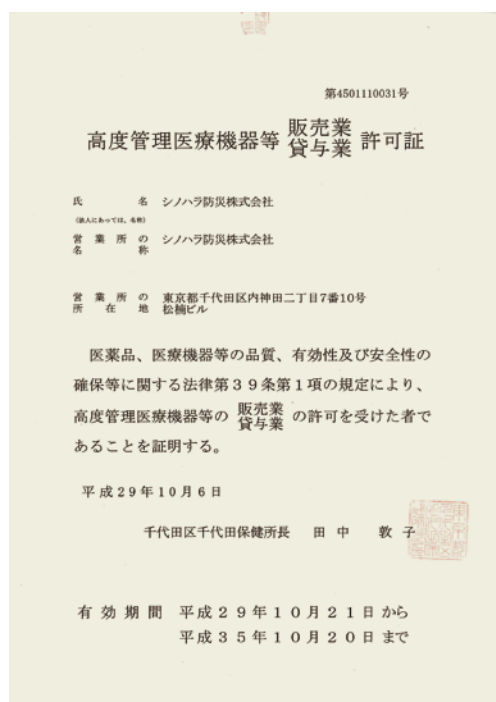
こうしないと危険だよ」と、言いたいことを言わせてもらっています。幸い、皆、素直に耳を傾けてくれています。付き合いが長いので、信頼関係があるからでしょう。

社長 これからはいろいろなことを次世代へ引き継いでいく時期。歳を重ねた者には、新しい発想を持つとも思っても、どうしても限界があります。新しい時代には新しい考え方を取り入れなければ生き残れないと思っています。しかしそのような新発想とは別に、引き継いでほしいものもあるんです。それは歴史。つまりお客様との信頼関係なのです。我々の防災の仕事というのは、人様の財産や命を守る仕事ですからこれだけは失ってはならない。

会長 自分だけのことと違いますから、誠意が何よりも大事です。たとえば、消防法や関連法規は実に細かい上に、改正されると遡及する。だから常にプロとして勉強し続け、お客様の立場に立って、「この建物はこういうわけで、ここをこうしないと」とご提案していくことが重要です。法律に守られた業界だからこそ、伝えるべきこと・やるべきことはきちんとやらないといけません。

社長 免許の更新試験も年中ありますから、大変かもしれません。しかし、世のため人のためになれる、社会貢献できる喜びや誇りは、この仕事ならではの醍醐味だと思います。その喜びと誇りを胸に前進し、会社を発展させていってほしいですね。

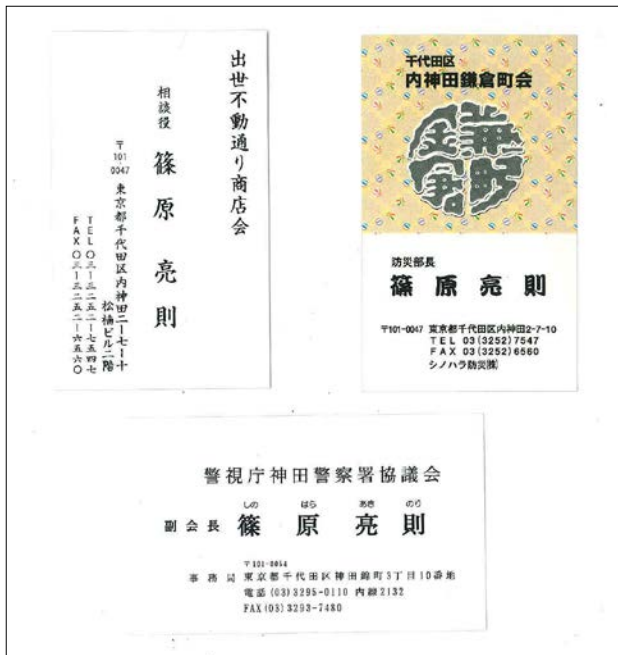
副会長 経営陣は社員に、そして上司は部下に任せることが大事だと思います。責任感を持たせ、あとは信頼して見守る。一生懸命やっているのに横から口出しされたら、やる気が削がれますよね。もし失



副会長の心筋梗塞に端を発した「高度管理医療機器販売許可証」の取得



神田祭で行われる内神田鎌倉町会の町内渡御



地元神田で、多くの役割を担っている

敗したら、最終的に私たちが責任取るから、思い切りやれ、と言うべきなのです。

社長 社員で情報を共有することも大事ですね。2011年に東日本大震災が起きた時も、まず専務（篠原徹）と取締役（篠原隆宏）が津波被害も甚大だった宮城県南三陸町などを視察して回り、写真と共に報告してくれました。テレビや新聞での報道で被害の甚大さは知っていたけれども、やはり直接聞く話は衝撃的でした。

会長 防災会社としてしっかり見ておくべきだから、2年後、今度は社員全員で共有すべく、再び同じ場所を巡りました。報道を通して見聞するのと、実際に現地に足を運んで経験するのでは違いますから。

社長 テレビの画面と違って360度、災害の光景が広がっていますから……。がれきは撤去されていましたが、だからといって復興が進んでいるわけではない。建物もない、人もいない空間が広がっているんです。

阪神淡路大震災、中越地震なども視察に行きましたが、正直、毎回、圧倒的な自然の力を前に無力さを感じざるを得ません。そして同時に、「自分たちは防災会社として、これから何ができるのだろうか」と改めて考えます。

今後の防災の基本は、「どう確実に身を守っていくか」、でしょうね。どう避難ルートを確保し、迅速に安全な場所までたどり着くか。少なくとも火

災のような人災については、ビル設備を早く更新し、安全性を高め、有効に活用できるように、お手伝いできる余地は大きいと考えています。

会長 現在の事業所も、できる耐震対策はすべてしていますから、3.11の日も書棚など、どこからも物が落ちず、何も被害がありませんでした。

社長 これからの時代は、防災そのものの役割が変わってくると思います。1件の家、1つのビルだけが頑張ってもどうにもならない。地域ぐるみで組織的に取り組むことが不可欠です。それを踏まえて当社もよりいっそう地域貢献に努めつつ、業務でもその姿勢でアクションを起こし続けていきたいと思っています。

会長 当社が地域の消防団の協力事業所になったことや、江戸時代から続く内神田鎌倉町会の防災部長を引き受けたことも、そうした思いからです。都心では再開発が進んでいますが、地域の絆が強く人情に厚い神田のよさは守っていききたいですね。

社長 長年のおつき合いで、愛着がある。お祭りには「シノハラ防災」という名入りの印半纏を着て、会社を挙げて協力しています。

会長 この街は何かあると町ぐるみなんです。商業主義じゃない、皆でやろうという文化がある。町の強さがあるのです。

そうした地域で70周年を機にさらに事業を発展させていくために、今後、どうした点に留意していくべきかということをよく考えます。まず、仕事の進め方については、基本的には今のやり方を継続していくことが第一ですが、勉強が必要だということは常に意識してほしい。資格取得にも、あきらめないで挑戦していくこと。そうすれば自分の考え方も、チャンスも広がっていきます。

副会長 あきらめないことは重要です。何か問題が起こった時などは特に。むしろそんなときこそ、すぐに現場に足を運び、話を聞き、対応する。相手も人間ですから、誠意を感じ取ってくれ、打開への道も見つかるものです。そうした心構えがあれば、自然に発展していくと思っています。

社長 歴史は歴史としてつないでいながら、同時に新しいものを柔軟に取り入れながら、常に「今」の時代に合った会社経営を進めていきたいと思っています。

会長 事業の継続には無くてはならない後継ぎとしての私の二人の息子が今では中心になってきた事はとても心強く感じます。

これからの時代を どう生き抜いていくか 時代の変化をとらえる経営ビジョン

代表取締役社長 篠原 公則

会社は単独では存続できない、と社長は語る。社員は当然のこと、協力会社や関係団体の存在なくしては何もできない。お客様、すべての関係者、そして地場への感謝を忘れず、変化をいとわないその経営譚に迫る

神田という地で創業し、70年、事業を展開してこられました——

神田は歴史的に古く名の知られた町です。特に鎌倉町は古く人情や絆が深い町で、商売の町というイメージが強くありますからここで事業をしていることに誇りを持っています。新規のお客様にも、私どもは長くここで商売をしていますとお伝えすると、その事実が信頼感を生み、安心していただけるようです。

また、大手町・東京駅に近いという地の利も有り難いです。商談などでどこへ出かけるにもアクセスがよく、とても便利だと感じています。

中小規模のビルをターゲットにしている戦略とその利点とは——

防災設備、特にメンテナンスのお客様とのお取引では、信頼関係を築いて、長くお付き合いいただけるよう常に心掛けています。消防法は一般的にわかりにくい部分が多いので、改正などがあつた場合にはお客様に情報提供をするとともに、さまざまなご案内をさせていただき、信頼を揺るがすことがないように心がけています。その結果、10年、20年、その中には創業期から続くお客様も大変多くおられ、それは私たち全員の誇りでもあります。

新規のお客様の場合、規模の大小にかかわらず1つ1つが真剣勝負、同じ姿勢で臨んでいますが、中小ビル関連の方が展開が早く、比較的努力に呼応した結果が出ています。ご説明して納得していただければ、即断即決、すぐにやろうとなりますから。

業界の現状、そしてそれに対する戦略やビジョンは——

防災業界においては、大規模な自然災害や火災が起きるたびに法改正が行われ、柔軟に業務を変化させていかなくてはなりません。当社でも、常に消防法改正や消防行政の動向を見つつ対応しています。社会全体で防災の重要性が増す中、今後、ますます期待される業界であると考えています。

戦略については「信頼できる人間を育てること」これに尽きるでしょう。そのために必要な知識や技術、仕事のやり方、心構えを伝え、それらを自身の実にしてもらい、人材を「人財」に変えていくこと。具体的には、消防設備業をさら

に期待される状況にするため、各スタッフの知識・技術の充実を目的とした資格取得の推進を心がけています。また、予想される消防法の改正によるさまざまな改修工事にも対応すべく、その準備にも常に力を注いでいます。

70年という社歴をどう生かすか。そして、社員の意識の変化は——

まず、長きにわたり事業を継続できたことは、それだけの知識・ノウハウ等を蓄積できたということになります。我々経営陣も社員も、自信と誇りを持って事に当たれるため従来のお客様や、新規営業活動にも、歴史の中で培ってきた財産を生かすことができていると感じています。

毎日のようにどこかで災害が発生している昨今、社員の意識として、防災事業に関わっていることが今まで以上に重要なことだと日々再認識してもらい、次のさらなる10年に向けて進んでいく心構えができていくこと、それを頼もしく思っています。

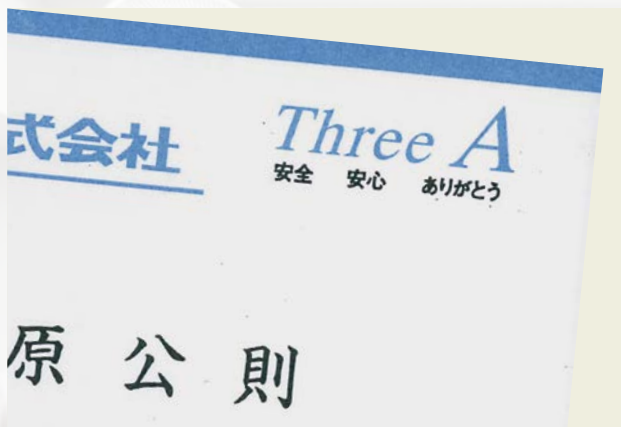
また70周年という節目の年だからこそ、初心に戻ることも大切です。その初心とは、私たちの新しい名刺に刷られた「Three A」というスローガンに凝縮されています。「安全」、「安心」、そしてお客様に「ありがとう」と言われるような仕事をする、と同時に常にお客様に「ありがとう」の気持ちを持ちましょう、ということです。

大きな災害から学ぶべき教訓、そして防災機器への必要性の啓蒙等は——

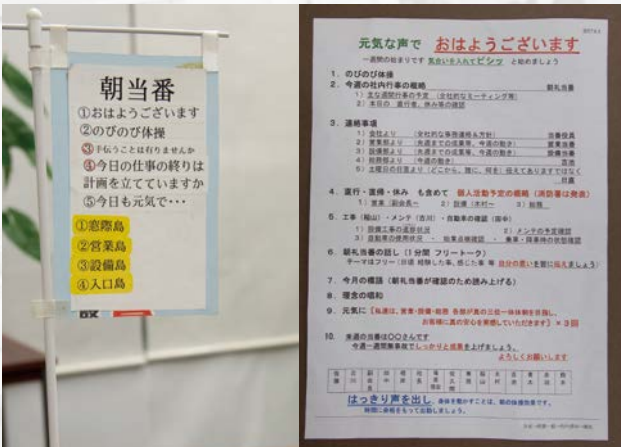
阪神淡路大震災、東日本大震災と、大規模な災害が起きるたびに、私どもは必ず現地へ足を運び、防災という我々の仕事とはどうあるべきなのかと考えてきました。



時代に則した社内体制の構築が
しいてはお客様の満足につながる



名刺に刻まれた初心の「Three A」



朝礼での当番の進行内容。1分間フリートークが興味深い

正直なところ、自然の力の前には人間はあまりにも無力だと思わざるを得ません。しかし、建物火災等の大災害は、未然にかなりの対策を取ることができます。同時に、消防法に対しては、改正を積極的に行うなどして、さらなる安全対策の強化を望みます。

災害はいつどこで起こるかわかりませんから、お客様の防災意識を高めていくことも重視しています。日々の営業活動においてお客様への情報提供とご提案を行うとともに、定期的に行われる防災訓練に向いて、最新の防災対策についてお話ししたり、消火器等の使用方法をお伝えしたりしています。

企業として発展させるために、最も大切にしていることは——

お客様との信頼関係の構築、そして社員全員の協力体制です。当社では営業スタッフには必ず現場を経験させ、技術スタッフには少ないながら顧客を持たせます。これによって互いの仕事内容を知り、相手の気持ちを理解して協力し合う素地ができるからです。社員皆が互いに思いやりを持ち、共に成長していかないとはいけません。「置いてけぼり」はダメです。そうなりそうな場合には、同じ「シノハラ丸」に乗っている仲間

なので、皆でその人を引き上げなくてはなりません。

毎日の朝礼でも、当番が必ず全員に向かって「手伝うことはありませんか？」と問いかけ、もしあればフォローします。同時に、「計画を立てていますか？」とも聞きます。これは無駄な残業をしなくて済むように、仕事の段取りを考えながら取り組んでいるか、自ら再確認してもらうためです。

創業70年を迎えることができた理由とは、そして変わったこと、変わらなかったこと——

常に社会貢献を念頭に、お客様目線で物事を見つめ、お客様とその時代の難問に当たる気持ちを大切にしてきたことを挙げたいと思います。そして、何より社員に恵まれたこと、また正直であったことも大きな要素でしょう。

我々の仕事はお客様のかけがえのない財産をお守りするもの。ですから信頼関係が大切です。そうである以上、お客様に対してウソがあったらいけない。見積もりを出すときも、ただ数字を出すのではなく、法律や時勢といった事実に基づいて、当社が提供するサービスが、お客様にとって必要なものであることをご説明し、納得していただくことを最優先にしています。

また、協力会社様、関連業者様の応援があったことも、今日を迎えられた理由のひとつです。いくら我々が頑張ったところで、ご協力がなかったら何もできません。

弊社の歴史の中で、最も大きな変化は働き方です。これまで、どの時代も毎

日夜遅くまでよく働いてきましたが、もうそういう時代ではありません。そこで、近年は特に力を入れて、効率よく作業をし、残業をなくすように努めてきました。水曜日もノー残業デーです。

労働時間を減らしてどうなったか、ですが、実は社員の満足度だけでなく、業績も上がったんです。

私たち兄弟は子どもの頃から家業を手伝ってきました。そのため、勤務時間というのは「9:00~17:00、残業なし、週休2日」という勤務体系ではないのです。家族で商売してきた人たちは皆、そうかもしれませんが、昼、夜、休みなく仕事をしていました。しかしそれでは今の時代に合わない。しかもそれは速やかに変えないといけない。それを率先して提言し、体制を変えてきたのが今の専務（篠原 徹）と取締役（篠原隆宏）です。これにより会社も従業員も大きく進路を変えることができました。

これまで弊社は常に変化を求めてきました。そのため「変わらなかったこと」は思いつきませんが、「常に変化を求める姿勢」が変わらなかったことだと思います（笑）。今後も新しい世代の意見を積極的に取り入れ、時代の変化に柔軟に対応していきたいと考えています。

経営においてやってはいけないことは、また、普段から社員に伝えていることは——

経営者は誠実な心、正直な心を忘れてはならないと思っています。自分だけが幸せになることを考えてはいけない。お客様や社員、協力会社の皆様はもちろん、社会全体の幸せを考える広い視野が、どんな時にも求められるものです。

そして社員には、物事をあきらめてはいけない、あきらめからは何も生まれない、と繰り返し伝えています。あきらめない心の先にこそ成功が待っているからです。

人のご縁をうまく継続できる秘訣とは——

常に人の立場に成り代わって考えなくてはなりません。なくて七癖、個性のない人はいません。したがって、どのような方でも自分から好感を持って接する心を忘れないことです。「あの人は難しいよ」などと他人から言われても、先入観を持たず、心からの好意を持って接していると、自然と良好な関係が築けるものです。逆に、どんなに取りつくりつても、心の中に嫌だと思いう気持ちがあれば、相手の方は必ず察します。

自分と相手の方との関係性などをどこか俯瞰して、客観的に眺めている視線も必要です。そして、「この人はどういう話が好きかな」「どういうときに喜ぶかな」と好奇心を持ち、実行していくといいと思います。



シノハラ防災を 70年の歴史を 社会に活かす

防災のありかたは年々異なる しかし「安全・安心」への意識は 今も昔も変わらない

今回、70周年の社史を制作するにあたって、改めて（というより初めて）当社の歴史を確認する事ができました。

祖父や父（現：会長）が自宅に消火器を大量に運んで来たり、学生時には詰替えや点検作業を手伝ったりと、子供の頃から「防災」の仕事が身近にある環境でしたが、社会情勢や消防法との関わりの中で当社がどのような役割を果たし、お客様や社会に必要な存在として評価をいただいていた企業として続いてきたのか。「防災」に関わる『シノハラ防災』の事を深く自身に刻み込む機会となりました。

祖父が創業し、父や叔父達により引き継がれてきた、「防災」という仕事をこれからの10年、20年、30年へとどのように繋いでいくか...

事業を継続していくにあたって様々な場面で耳にする『変わらない（変えてはいけない）もの』と『変えていくもの』を明確にして日々実行していく。それを積み重ねた毎日の結果がその先の未来のかたちになっていくものと考えてに至りました。



代表取締役専務 篠原 徹

『変わらないもの』

「安全と安心」を防災という仕事を通じてお客様 ひいては社会にご提供する事。そしてその仕事をしているというプライドです。プライドというと少し傲慢な印象になりますが、簡単に言うと「防災」という仕事がお客様や社会のお役にたっているという気持ちです。

子供の頃、父に「お父さんは何の仕事をしているの?」と聞いたことがありました。その時、父が「人の命を守っている仕事だよ」と答えたのを覚えています。恐らく、当時の私には防災の仕事を理解する事が難しかった故の父の回答だとは思いますが、「人命を守る」、この一言が「防災」や「社会貢献」の原点であり、このような応えを役職員はじめ当社に関わる全ての人が自信を持って発する事ができる会社を目指したいと思っています。

また、シノハラ防災としての行動の全てが「安全と安心」に繋がっているかを確認、それを判断基準とする事が未来へ繋がる1本の揺るがない道標となると考えています。

『変えていくもの』

『防災』の仕事とは文字どおり「災い」を「防ぐ」と考えています。人や建物などに振り掛かる「災いを防ぐ(防止・予防)」という意味で捉えると当社の仕事の範囲は限りなく広がっていきます。

創業より70年を経て当社も社会情勢や消防法など様々な変化に対応し、現在に至っています。創業時は進駐軍の向けの消火器部品の製造に始まり、その後、消火器の販売、各種の消防用設備の点検や施工を行える体制に徐々に発展してきました。現在は設備に対してだけでなく、日常の防火・防災管理に関わる各種点検業務や消防法とは別の建築基準法に基づく各種検査(調査)業務も請け負っています。

創業時より現在まで火災の予防や拡大防止を中心とする消防関係の事業が中心となっていますが、震災や風水害など自然災害に関わる事業もこの先において避けては通れない防災の分野です。また、建材や設備の技術革新によって火災の脅威が少なくなり、更に、現在有る一部の業務はAIにとって代わられる時期が来るかとは思いますが、一方でその火災の脅威を減らす事や最新設備を取り入れる過程において技術や関連する消防法などはより複雑化されると推測します。複雑な技術や法律をいかに分かり易くひも解いてお客様へ伝えるかも、防災業としての一つの役割だと感じています。

今後は今までよりも更に早いスピードでお客様や社会の持つ「災い」の定義が大きく変わってくる事が予想されます。時代や社会に応じて変わっていく「災い」を的確に捉え、当社の事業として形にしていく事が重要であると考えています。

ここで再度『変わらないもの』に戻ります。

「災いを防ぐ」ことが「安全と安心」のご提供に繋がり、結果的に当社がお客様や社会にとって必要な存在となり、社会貢献に繋がっていく。今までも、これからもシノハラ防災が「防災」という変わらない一つの基軸から逸れることなく事業を日々継続していく事が次の10年、20年、30年、そしてその先へと繋がっていくものと考えています。



定期的に開催される社内勉強会

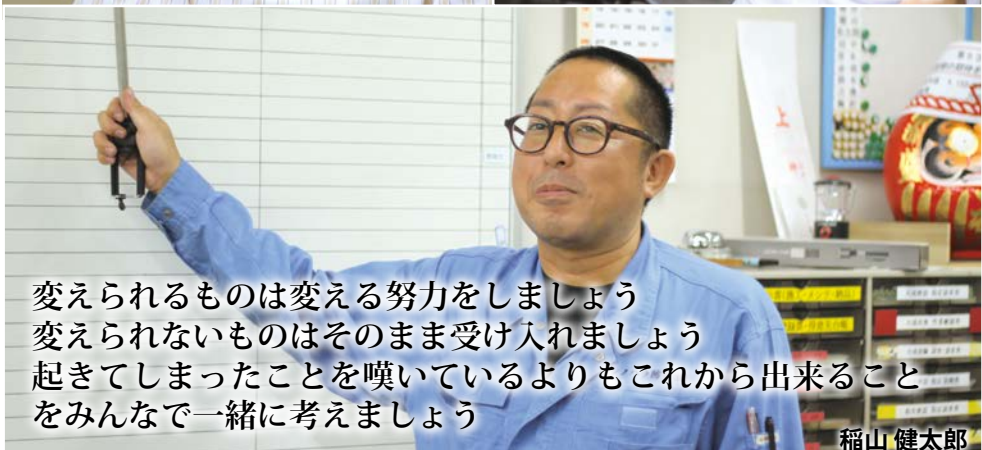


会社に残る昔の消火器具

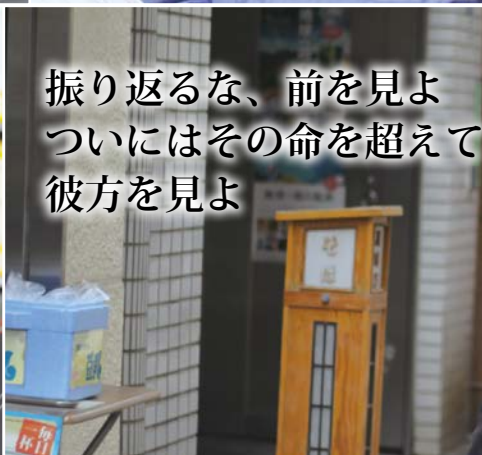
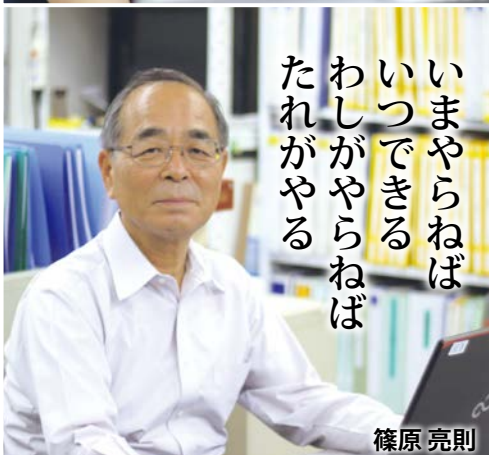
(左) 破壊型消火器(明治~昭和初期)

(右) 龍吐水(江戸時代~明治)

70年目の私たちの等身大



創業 70 周年を迎えた今、私たちはその歴史の重みと責任を感じながら、日々仕事に向き合っています。皆一様ではなく、それぞれが様々な思いを抱きながら最善を尽くす。シノハラ防災 70 年目の私たちの心の等身大。



社員行事

年1回必ず実施しています。行わない会社も今は多いですが、社員同士の「つながり」を強め会社の結束感を高めるにはとても大切な行事です。



私が入社したのは今から38年前、昭和55年9月1日の防災の日でした。

振り返ってみるとその頃は「防災の日」など全く意識していませんでしたが何か縁があったのだと思います。社員6名の小所帯で午前中は工事、午後は設備点検、帰社すると書類作成、伝票の発送と全てを行う業務体系でした。終業すると明日の事も考えずに飲み歩いた古き良き時代でした。

私が入社以来、毎年行っていることに「社内旅行」があります。当初はテニス主体の旅行を、次は釣りを主体と形を変えながら、ゴルフを主体とした時はクラブを握ったことも無い人もハンデで優勝出来る楽しみもありました。

昨今はグルメ志向になり、幹事は美味しい物探し旅に苦労している所です。今年も9月に予定されていますが楽しみにしています。

この小さな継続は社員の親睦を図る一つの力となり、今年迎える創業70周年への大きな原動力になる事を信じます。

木村 紀辰

入社して数年の頃に行った旅行で、千葉県千倉にある旅館に行きました。

この頃の旅行は、みんなでテニスをする事が多かったが、その時は釣りをする事になりました。

川での釣りは子供の頃からやっていたが、海釣り（船）は初めてでした。

子供の頃から乗り物酔いするタイプだったので不安でしたが、釣りのポイントまでは問題なく着き、釣り始めて数匹釣れたものの、5分位でダウン・・・

船頭さんは、我慢しなければ船酔いは馴れないと起こされたけど、やはり無理！

早く陸に上がりたいと思いつながら、数時間我慢したという思い出です。

古川 弘一



山形への社員旅行での苦い思い出です。
行きの新幹線車中で調子に乗って飲みすぎ、新幹線を降りてからバスに乗り込んだ先の行動の記憶がポツカリと抜けてありません。
昼食に食べたらしいゲソテンそばの事やら、山寺の階段を必死に登っていたらしく、途中で座り込みを決めたらしい事やら、天童の将棋何とかセンターという所に寄ったらしい事などなど、途中のバスの中でようやく気が付き記憶の欠落に思い至った時の喪失感たるや... もったいないやら恥ずかしいやらで身を縮めていました。
その夜は夕食を含め一切のアルコールを断ちました。

青木 信二

社内行事としての旅行が多く思い出されます。子供が小さい頃は夏休みの連休を利用して毎年家族で旅行に出掛ける事が楽しみの一つでしたが、大きくなると親と出掛ける事が無くなり、唯一、遠出する事が出来た機会が会社の旅行でした。
初めてゴルフを経験、少しの練習では上手に出来る訳も無く、打つ度に右に左に、ひたすら走り通し。でも、その後の素晴らしい温泉と美味しい料理に舌鼓。さらに、部屋に戻り皆で楽しく過ごした事。またある時は国内の有名な名所を数多くめぐり、さらに良い温泉と料理。大変、満足した思い出でした。これからも、まだまだ続いてほしいものです。

根岸 富男

2013年東北社員旅行の際、津波の傷跡の衝撃は大きなものでした。
早朝一人で南三陸町の海岸沿いを10km程ランニングした時に見た風景です。
山側の小高い森林で樹木の下3/4位(7~10m以上だと思えます)が津波で海水に浸かってしまった為に先端だけ緑が残った、幹は白茶っぽく変色している何百本もの樹木に出合いました。自然が生んだ不自然な光景でした。あの樹々は生き延びられたのか?復活している事を祈ります。

佐久間 寛



お仕事 COLUMN

Work is so hard . . .



仕事の中で一番の思い出は、営業部に入社して初めてお客様から発注を頂いた受注案件です。

D興業様の所有するビルの改修工事の提案で見積書を片手に訪問しました。自動火災報知設備の増設工事でしたが、知識も乏しく質問されたらどうしようと不安な気持ちでした。

それを察して下さったのかS部長は、金額の交渉のみで止めてくれました(笑)。その場で「それじゃ、工事をお願いするよ」と言われたときは、やっぱり嬉しい気持ちで満ち溢れました。

今後もこのエピソードを定期的に思い出し、初心を振り返りながら営業活動に努めたいです。

赤羽 雄太郎



仕事はツライよ… と嘆いていてもしょうがない。今日も顔を上げて歩いていこう。人々の安全を守るためにはわたしたちの力が必要なのだ！さあ今日も仕事へ向かおう！

防災の仕事をしていると工事や点検などで、通常では入る事のない建物の裏側を目にする機会が多くあります。深夜のホテルや飲食店の厨房、病院の手術室の奥など…

お客様の機密事項でもあるので、具体的には書けませんが、普段は見えないところでの職員（スタッフ）の方々の陰の努力に感心をしたり、「えっ 実はこんななんだ」と驚いたり…

防災の仕事も人命や建物の安全・安心に関わる裏方の仕事です。

普段は見えにくい仕事ですが、「きっと誰かが見ていてくれる」そんな気持ちで日々、仕事をしています。

篠原 徹



高校卒業して、18歳から働き始めたので社会の右も左もわからなかった頃、車の運転の特訓みたいなのがあったりした。当時、トヨタマーク2のバンのマニュアルの社用車の隣に乗ってもらって神田界隈を教習所のようにご指導してもらったりした。その時、左側に止まっていたダンプにつっこみそうになり大声で怒られた事、そんな事ですら、「僕って、仕事向いてないのかも」と落ち込んだりしていた10代の頃

お酒が呑めるようになった20代の頃

まあ、お酒のエピソードで書けない事もあったりするのには誰にでもあると思うのだが「無礼講だから、たくさん飲んでもよし、言いたいことがあったら言ってもよし、それで飲みすぎて会社に来なかつたりしたらえらい！」みたいな事を言われて真に受け、調子によって呑んでダメになり朝、遅刻していったらめっちゃくちゃ怒られた事。今ではギリギリアウトな事を教えてもらった20代の頃

一度辞めて戻ってきた30代の頃

ちょうど10年離れてみて思った事は残っていた方たちが歳とったなあと思いつつ自分も結婚して、子供もできたりもして老けたなあと感じた当たり前だ、10年も経てば人も変わるし会社も変わる10年前にも同じ事で怒られたりもしたが変わらなく、いいものもあるとわかるように少しずつなってきた30代の頃

それから10年経った40代もなかば

振り返ってみるとあっという間の10年だったと思う。新しく覚えていった技術や、ブラッシュアップされたスキルもあるけど、覚えているのは人との思い出であって退職された方々、新しく入ってきた人たちもちろん、今もいる面々とのエピソードだったりする。

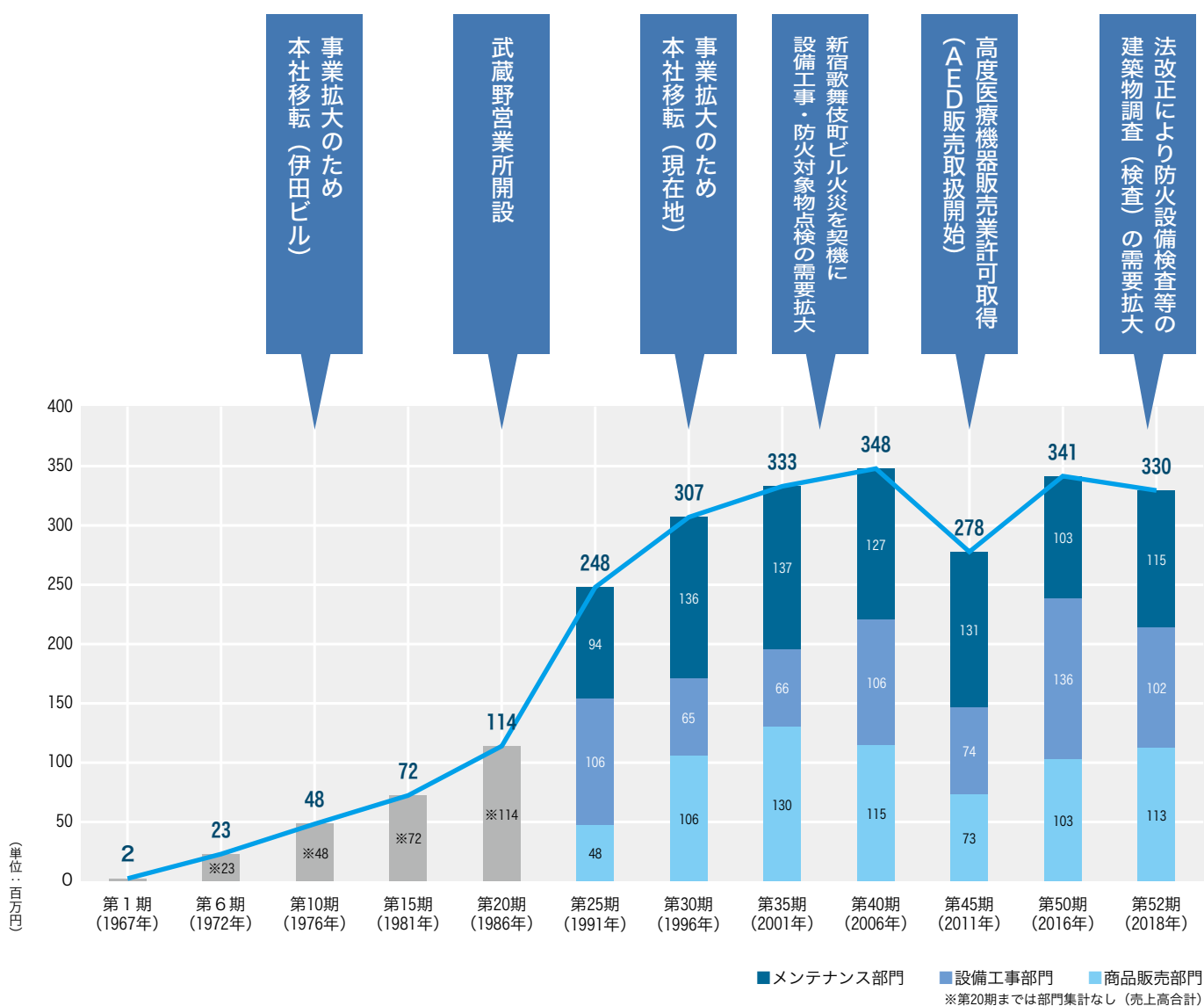
やっぱりどうしたって人との関わりが大事なんだなあと思ったのと同時に、もう人の悪口は言うのはやめようと思う。

稲山 健太郎

会社情報

主な出来事と売り上げ推移

	第1期 (1967年)	第6期 (1972年)	第10期 (1976年)	第15期 (1981年)	第20期 (1986年)	第25期 (1991年)	第30期 (1996年)	第35期 (2001年)	第40期 (2006年)	第45期 (2011年)	第50期 (2016年)	第52期 (2018年)
売上高合計	2,226	22,764	48,212	72,297	113,774	247,961	306,973	333,151	348,001	277,662	341,494	329,587
商品販売	2,226	22,764	48,212	72,297	113,774	48,015	106,168	130,370	114,977	73,452	102,667	112,540
設備工事						105,721	64,715	65,534	105,933	73,598	136,280	101,718
メンテナンス						94,225	136,090	137,247	127,091	130,611	102,547	115,327



会社概要

商号 シノハラ防災株式会社
創業 1948年（昭和23年）10月
設立 1967年（昭和42年）5月20日
本社 東京都千代田区内神田2-7-10
武蔵野営業所 東京都武蔵野市吉祥寺南町2-23-19

営業種目

- I 消防・防災用の機器、用品、設備の販売、設計、施工、保守点検
- II 防火対象物点検、防災管理点検
- III 特定建築物定期調査、建築設備定期検査、防火設備定期検査
- IV 電気工事
- V 医療機器等の販売及び賃貸

保有資格

消防設備士（甲種特類～乙種7類まで全種）
消防用設備点検資格者（特種、1種、2種の全種）
防火対象物点検資格者、防災管理点検資格者
防火安全技術者、防火管理者、可搬消防ポンプ等整備資格者
電気工事士（1種、2種）、蓄電池設備整備資格者
1級電気工事施工管理技士、統括安全衛生責任者
危険物取扱者、電話担任者
建設経理事務士、販売士
労働安全衛生法による講習終了（職長教育、安全衛生特別教育、高所作業）
特定建築物調査員、建築設備検査員、防火設備検査員

登録

消防設備業届（東京消防庁）
建設業（一般 東京都知事許可 消防施設工事・電気工事）
環境経営システム エコアクション21（認証・登録番号0003041）
高度医療機器販売業・賃貸業許可（東京都知事）

加盟団体

（一社）全国消防機器販売業協会
（一社）全国避難設備工業会
（公財）東京都防災救急協会
東京都消防設備協同組合

表彰等

黄綬褒章……………1名
消防庁長官表彰……………4名
東京消防庁消防総監表彰……………5名
東京消防庁予防部長表彰……………5名
東京消防庁神田消防署長表彰……………9名
東京消防庁武蔵野消防署長表彰……………10名
全国消防機器協会表彰……………4名
全国消防機器販売業協会表彰……………7名
日本消防設備安全センター表彰……………1名
全国避難設備工業会表彰……………6名
東京都防災救急協会表彰……………2名
東京都消防設備協同組合表彰……………6名
神田消防団長表彰……………1名
千代田区長表彰……………1名

